

自己託送制度を用いた 再生可能エネルギーの有効活用について

— 脱炭素社会の推進 —



1

東京建物のご紹介

2

東京建物グループの長期ビジョンと環境への取り組み

3

自己託送制度を用いた再生可能エネルギーの有効活用

4

東京建物とサステナブルな未来



東京建物



安田善次郎



1896年創業 創業当時の社屋

創業者である安田善次郎が旨とした
「お客様第一の精神」と、
時代の流れを先んじて捉える
「進取の精神」を原点に、
企業活動を展開。

東京建物



ビル事業本部

ビル事業企画部

→ 環境対策推進グループ

まちづくり推進部

ビルマネジメント第一部

ビルマネジメント第二部

ビル営業推進部

都市開発事業第一部

都市開発事業第二部

商業事業部

ロジスティックス事業部

ホテル事業部

ビルエンジニアリング部

関西支店

九州支店

名古屋支店

1

東京建物のご紹介

2

東京建物グループの長期ビジョンと環境への取り組み

3

自己託送制度を用いた再生可能エネルギーの有効活用

4

東京建物とサステナブルな未来



長期ビジョン

次世代デベロッパーへ

長期ビジョン
次世代デベロッパーへ



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

さまざまな社会課題の解決

SDGs
達成への貢献



着実な利益成長

2030年頃の目指す姿

連結事業利益 1,200億円

連結事業利益 = 連結営業利益 + 持分法投資損益

事業を通じて「社会課題の解決」と「企業としての成長」を
より高い次元で両立することで
すべてのステークホルダーにとっての「いい会社」を目指します。

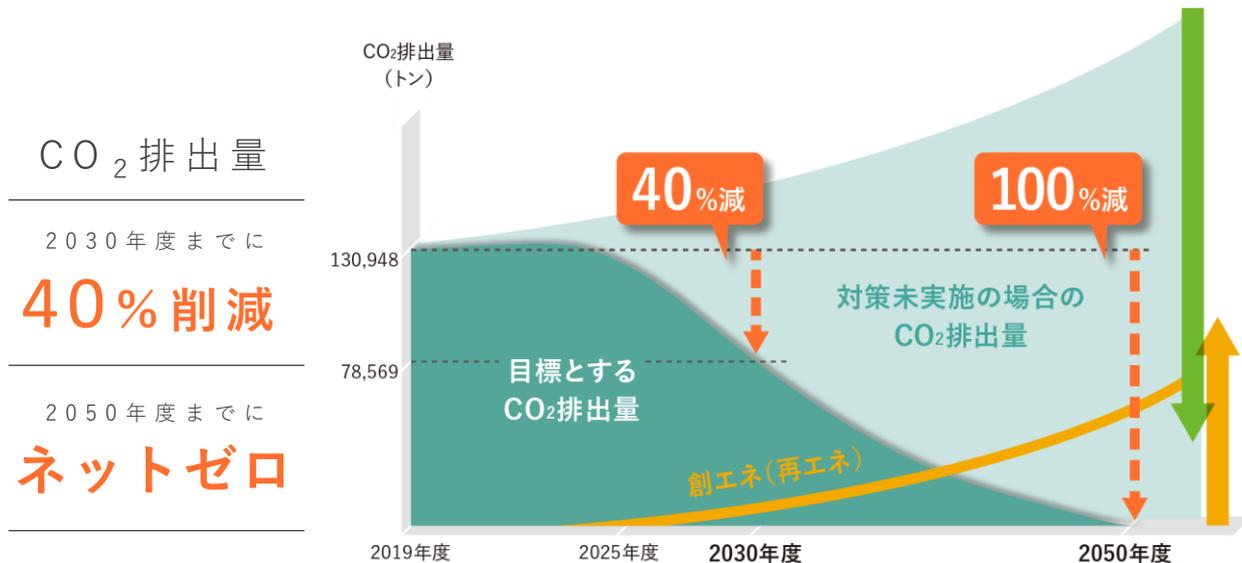
近年の社会情勢や価値観の変化を受け、2021年にグループとして取り組むべき マテリアリティを改定

	重要課題	社会との共有価値	SDGsへの貢献	
社会価値創出	国際都市東京の競争力強化	「場の価値」と「体験価値」の創出		
	安全・安心な社会への貢献			
	コミュニティの形成・活性化			
	ウェルビーイング			
	顧客・社会の多様なニーズの実現			
	価値共創とイノベーション			
	テクノロジーの社会実装			
	不動産ストックの再生・活用			
価値創造基盤	脱炭素社会の推進	地球環境との共生		
	循環型社会の推進			
	従業員の成長と働きがいの向上			価値を創造する人材
	ダイバーシティ&インクルージョン			サステナビリティ経営の実現
	ガバナンスの高度化			
リスクマネジメントの強化				



サステナブルなまちづくり

環境対策に関する目標



一定程度の創エネの検討・実施と
電力メニュー切替のバランスにより
目標達成に向けた行動を推進

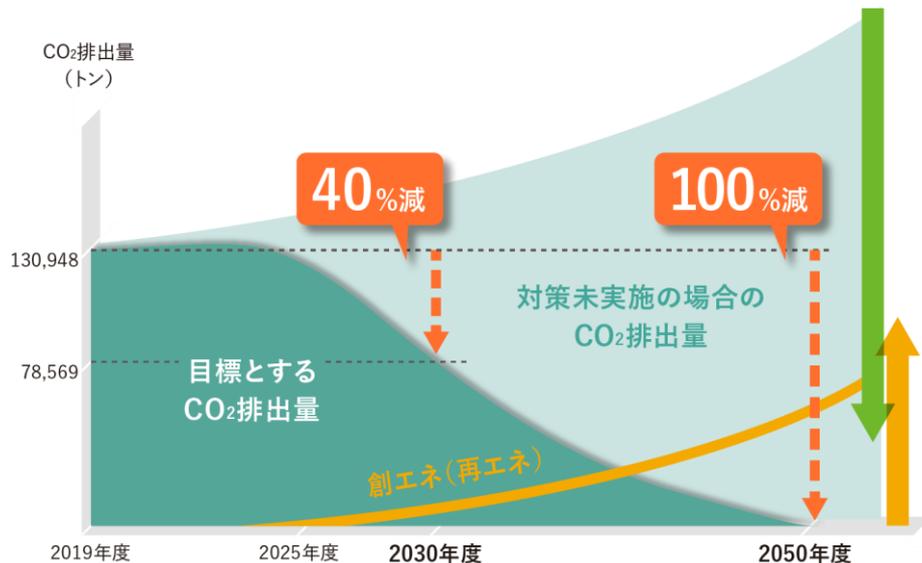


環境への具体的な取り組みと今後の計画

CO₂ 排出量

2030年度までに
40%削減

2050年度までに
ネットゼロ



一定程度の創エネの検討・実施と
電力メニュー切替のバランスにより
目標達成に向けた行動を推進



取組

1

物件の環境性能向上

取組

2

オンサイト・オフサイト
PV (太陽光発電) の開発

取組

3

資源循環の構築
廃棄物の燃料化

環境への具体的な取り組みと今後の計画

取組 ①

物件の環境性能向上

新築 ZEB等の開発

既存 省エネ施策の推進



取組 ②

オンサイト・オフサイト
PV (太陽光発電) の開発

(自家消費 + 自己託送)



取組 ③

資源循環の構築
廃棄物の燃料化

1

東京建物のご紹介

2

東京建物グループの長期ビジョンと環境への取り組み

3

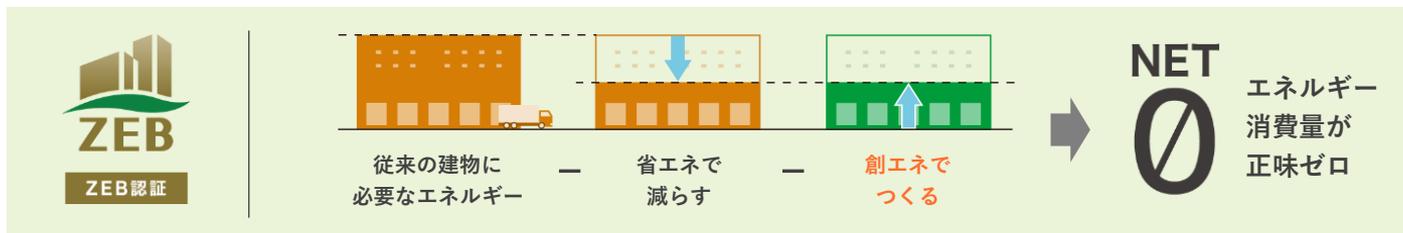
自己託送制度を用いた再生可能エネルギーの有効活用

4

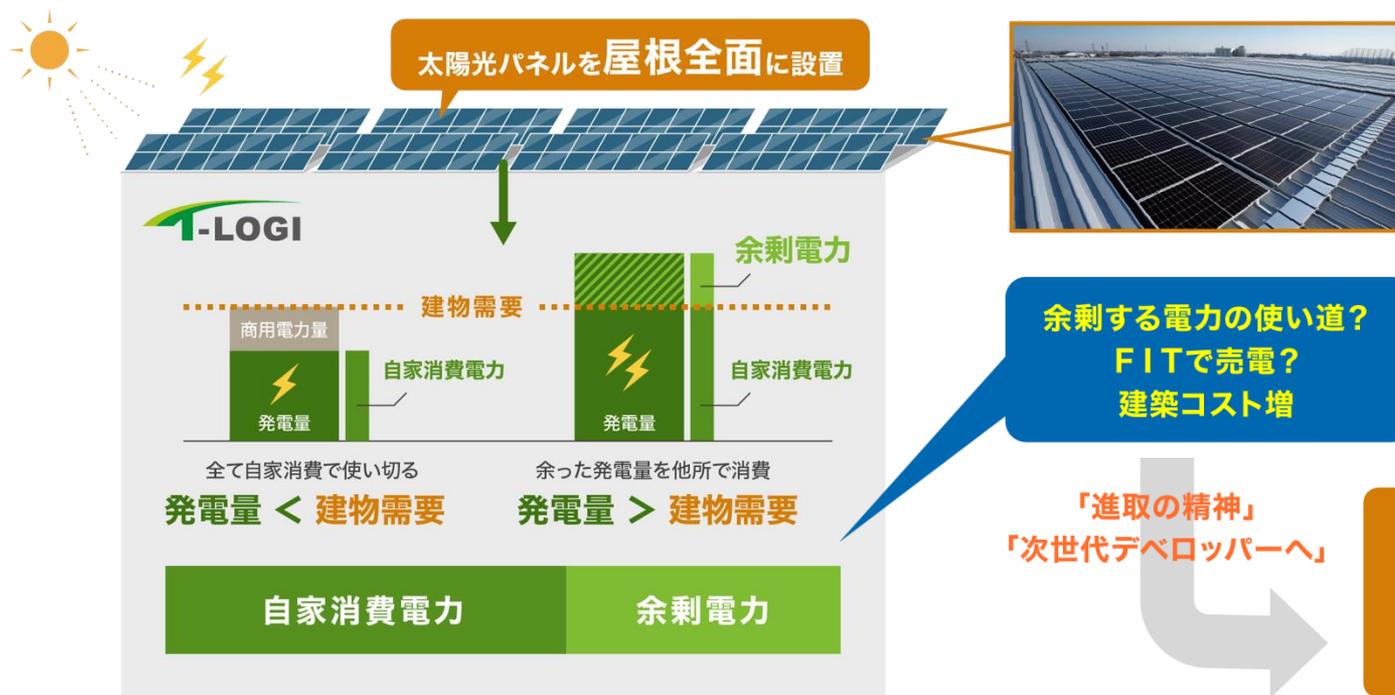
東京建物とサステナブルな未来

環境性能の向上 『ZEB』の取得

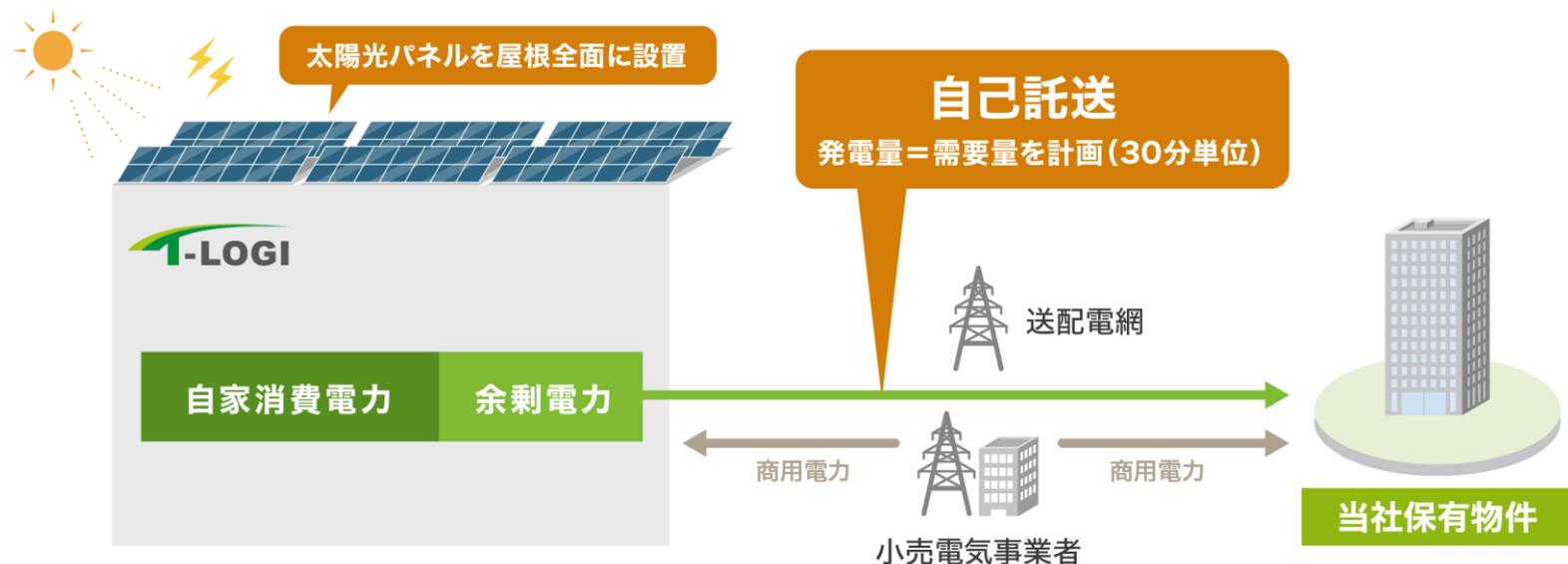
環境配慮型物流施設



太陽光パネルの屋上への全面設置



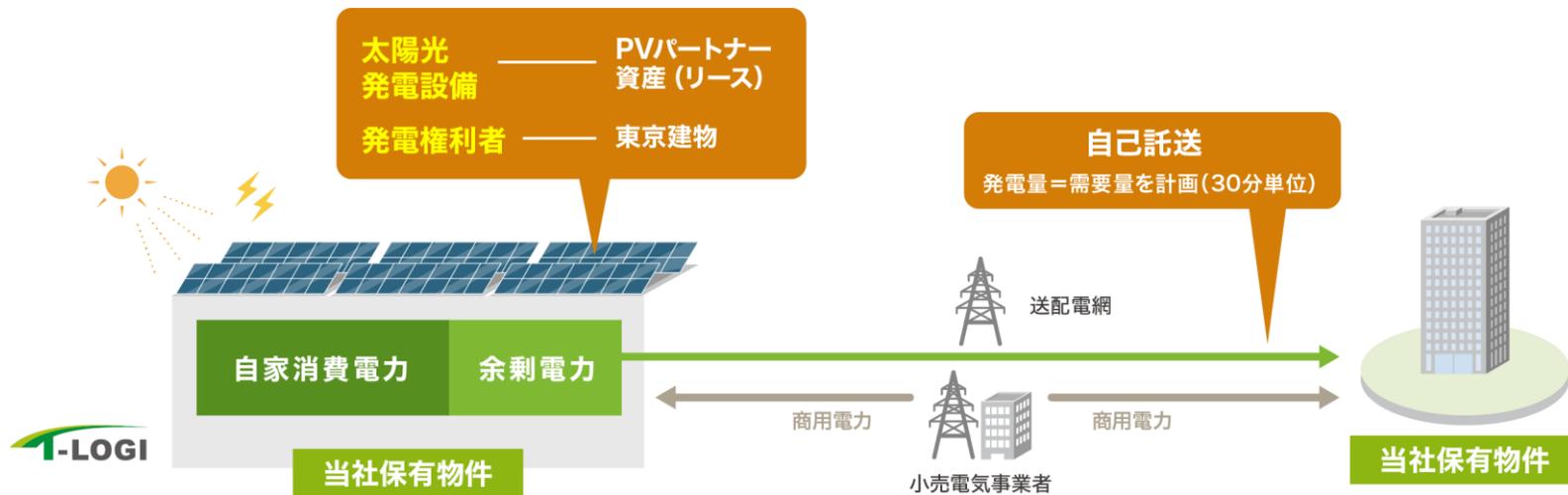
余剰電力の創出 = 自己託送による再エネの有効活用【生再エネ】



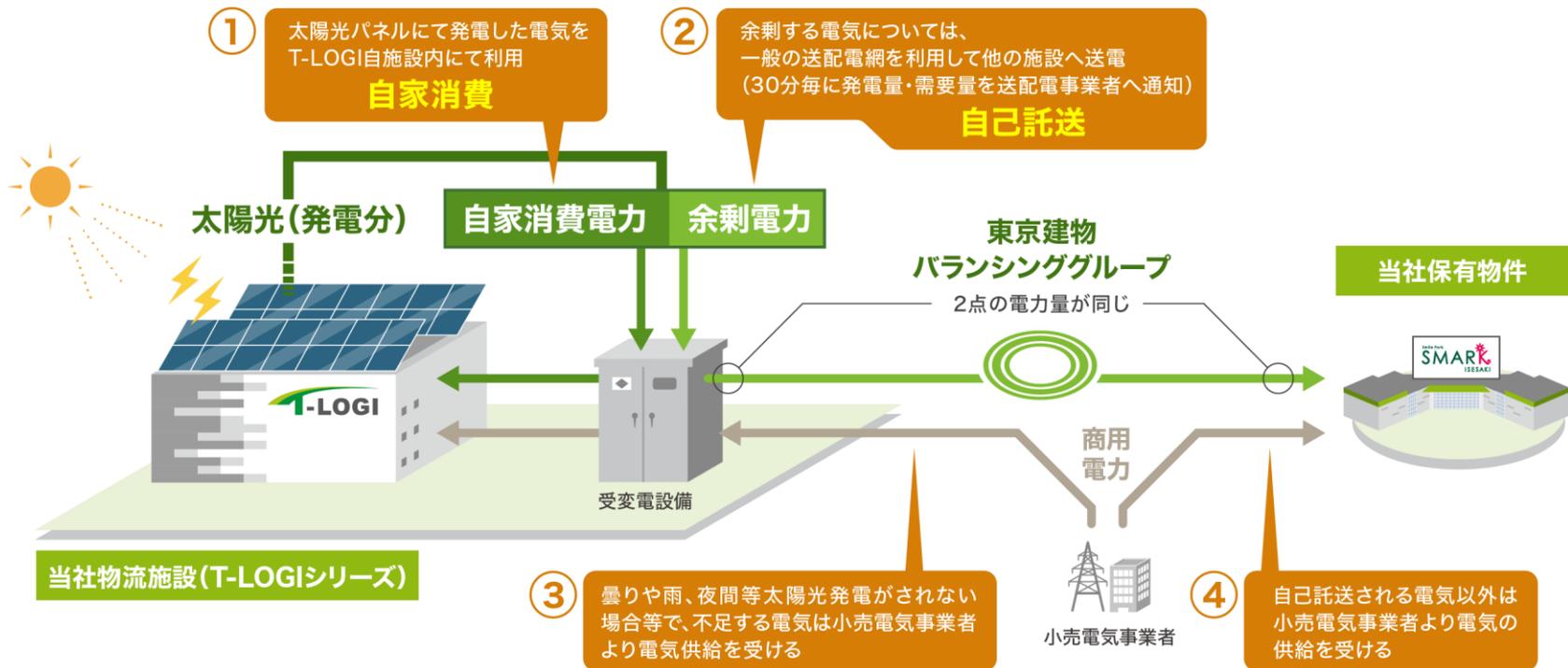
自己託送制度

自己託送制度とは

非事業用の**自家用発電設備**を維持し、および運用する者が、当該**自家用発電設備**を用いて発電した電気を一般配電事業者が維持し、および運用する送配電ネットワークを介して、当該**自家用発電設備**を設置する者の**別の場所にある工場等**に送電する際に、当該一般送配電事業者が提供するサービス。



自家消費が前提 余剰電力を自己託送



自己託送のポイント 30分値同時同量制度

30分ごとに **発電量** と **需要量** を予測し計画値を提出

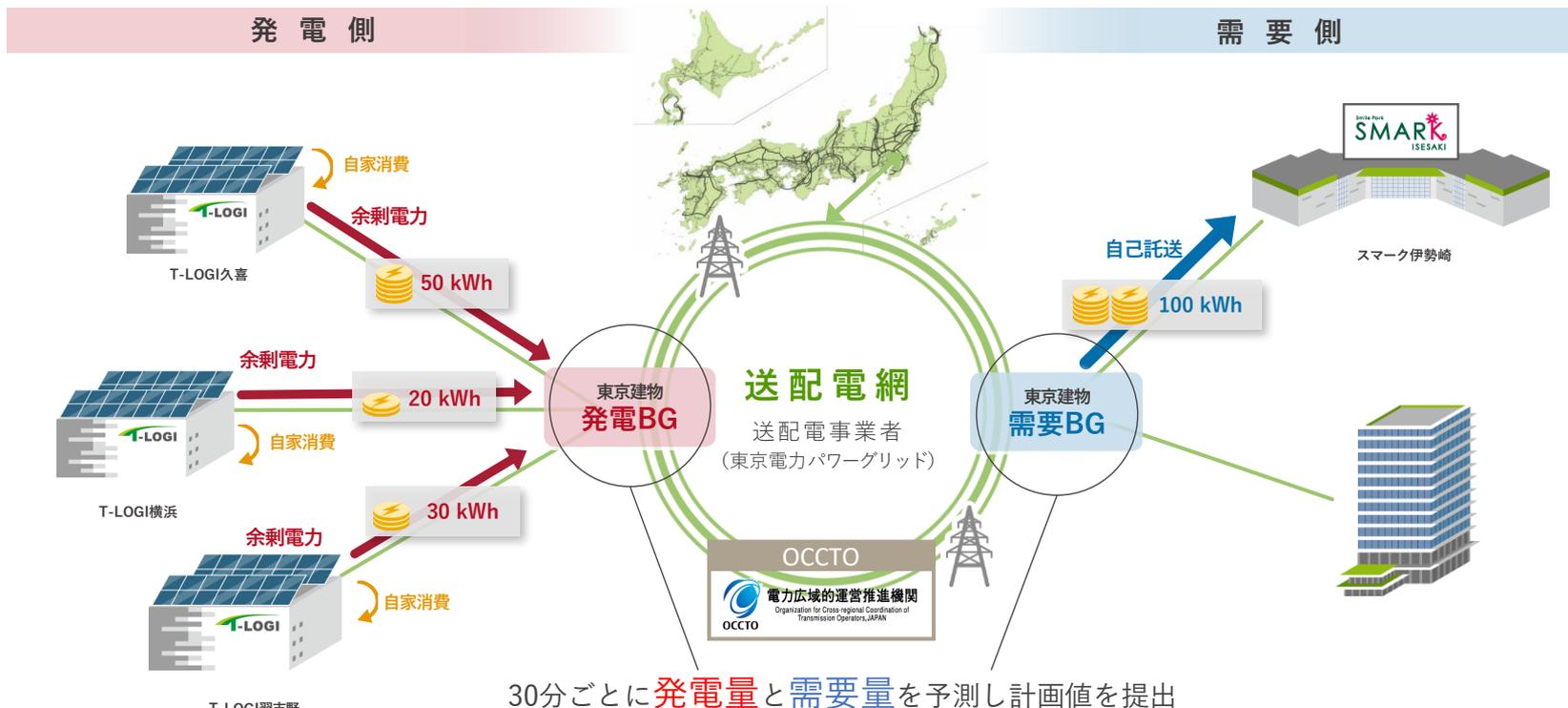


OCCTO



電力広域的運営推進機関
Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

東京建物にて組成したバランシンググループ（BG）で、
30分ごとに、発電する電力と使用する電力を同時同量に送電。



30分ごとに発電量と需要量を予測し計画値を提出

1

東京建物のご紹介

2

東京建物グループの長期ビジョンと環境への取り組み

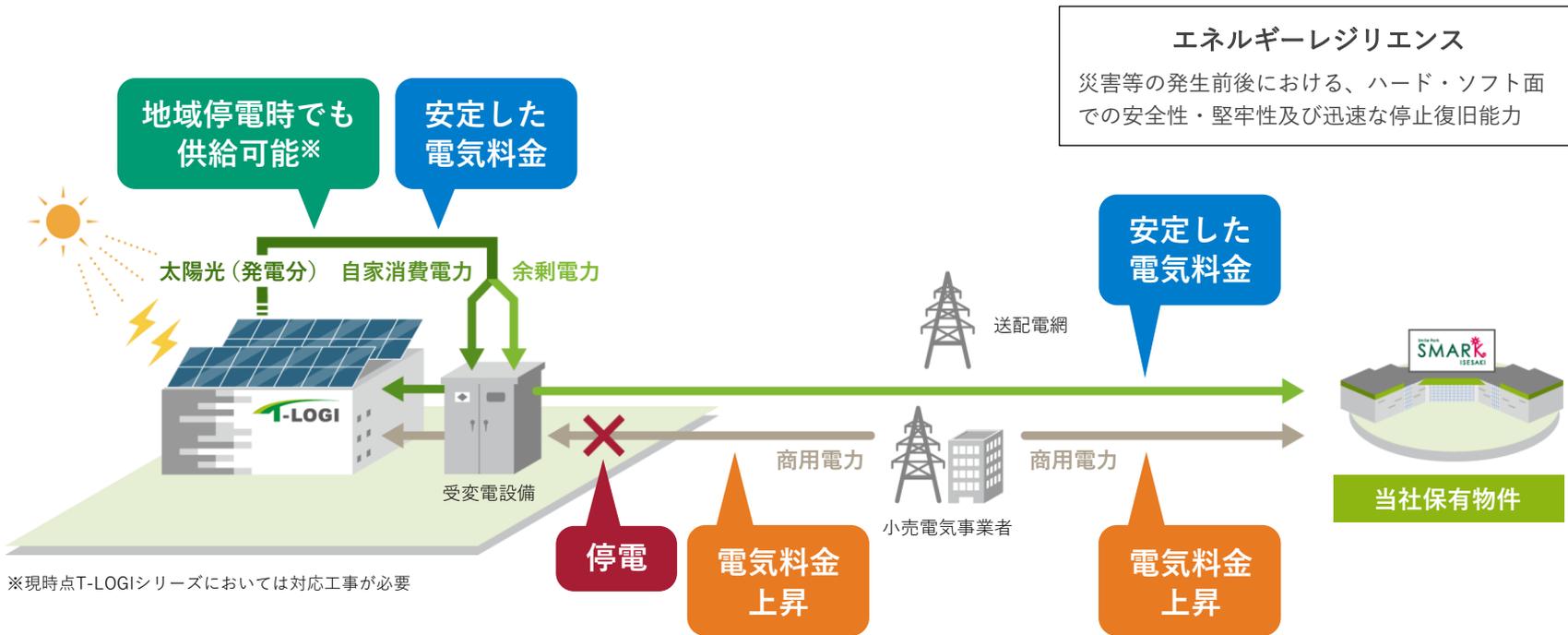
3

脱炭素社会の推進 ～ 自己託送による再生可能エネルギーの有効活用 ～

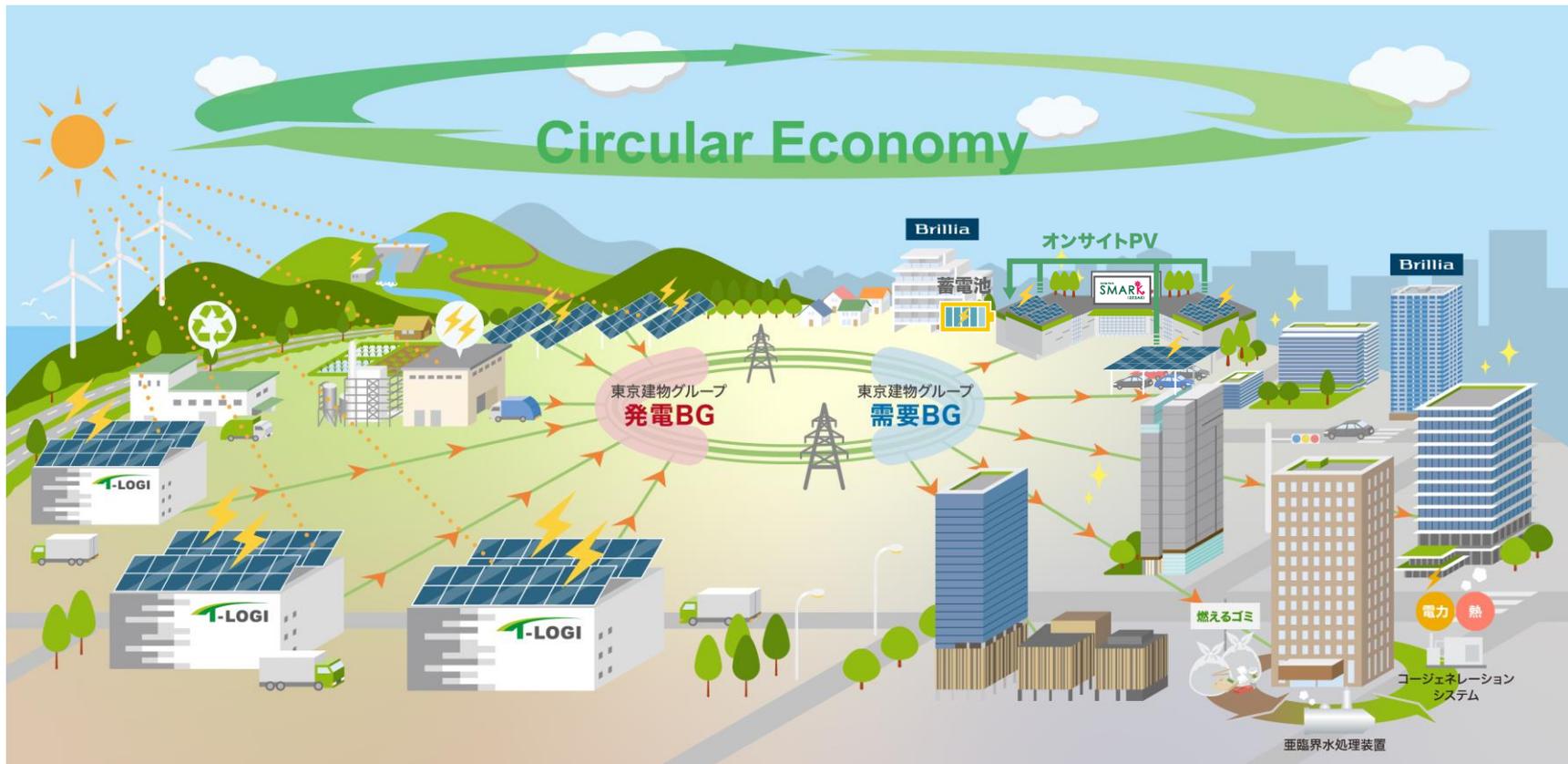
4

東京建物とサステナブルな未来

エネルギーレジリエンス向上に寄与



※現時点T-LOGIシリーズにおいては対応工事が必要





東京建物は、
みなさまと連携して、
脱炭素・資源循環の取り組みを継続し、
サステナブルなまちづくりを
推進してまいります。

